

様式（第3条関係）

東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都中原2-17-39
園名	ベネッセ 三鷹東台保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ポニーとあそぼう

<テーマの設定理由>

吉川牧場のポニー達との交流を15年以上続けている。広い園庭を活用することで、子どももポニーも伸び伸びと、触れ合い遊ぶことができている。0歳児クラスからポニーと触れ合ってきていることでポニーに親しみを持ち、年齢が上がるごとにポニーの個性や生態への関心を深めている為、テーマに選定した。

2. 活動スケジュール

4月22日（火）園庭でエサやり、触れ合い体験
5月13日（火）園庭でエサやり、触れ合い体験
6月17日（火）→猛暑の為、11月25日に延期
10月14日（火）園庭でエサやり、触れ合い体験
11月25日（火）園庭でエサやり、触れ合い体験
12月23日（火）園庭でエサやり、触れ合い体験
3月18日（水）牧場へ遠足（年長児）

3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

安心できる距離感で観察できるよう衝立柵、ビールケース、木のベンチ、ポニーお世話用のエサ用タライ、水用タライ、木にくくるロープを用意した。
馬を知る機会となる図鑑、絵本を用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

学年ごとにゆったりと触れ合える時間を設け、エサやりや触れ合いの中であった子ども達の反応や気付きを次回の交流時の援助に活かす。

年長クラスは、年長児だけのお世話タイムを作り、水をあげる、ポニーの毛をとかす、糞を集めるなどの体験を行う。水の飲み方の違い、糞に何が入っているかなど世話を通して感じる疑問に対し、考えたり想像したりする時間を設けた。間近に見るポニーの行動や生態から「何を考えているの?」「どうしてこの行動をするの?」と考える機会をもった。また、ポニーとの体験終了後に、年長児が話しあう時間を設け、疑問や次に何を体験したいかを考え、次回の体験に繋げる取り組みを行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・特に0～2歳クラスでは、ポニーに近づくのが怖い子へ、安心する担任や年上の友達がエサやりのサポートをしていた。定期的にポニーと触れ合うことで、恐怖心が減っていき、自分で餌をあげられるようになり、「自分でできた!」「ポニーと仲良くなれた」と子どもの自信や喜びに繋がっていた。

・3～5歳クラスでは、エサをあげるだけでなく、脚や耳の動き、毛並み等をよく観察し、前回との違いを見つけて、気になることは吉川さんに質問していた。耳の動きから「何かを怖がっているみたい。何を怖がっているんだろう?」と、ポニーの気持ちを考えるやりとりがあった。また、ポニーが口を動かさずに水を飲む姿を見て、「どうやって?」と沸いた疑問に対して、同じ飲み方を実際に真似できるように、保育者が紙皿と水を用意する等、子ども達の気付きから活動を展開していった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た職員の気づき>

・ポニーの行動や反応について、子どもから疑問が出たときに、「どうしてだと思う?」と問い返したり、ポニーと同じ行動を実際に動いて試してみたり、子ども達が考え体験できる機会を増やした。その結果、「こうしたいのかな?」等、ポニーの気持ちを想像するやりとりや、思いやる発言が増え、想像力や好奇心、共感する力に繋がったと感じる。

・年5回、同じポニーと繰り返し触れ合うことで、ポニーの個性を理解したり、親しみを持つことができたり、生き物を大切に思う気持ちが育まれている。

・職員は安全管理の方へ意識が向き、子ども達の眩みや目線を見逃してしまっていることもある。職員自身が共に触れ合いを楽しみ、生き物の不思議さや面白さを伝えられるようなやりとりを増やしていきたい。

